



大学テニス選手の アンフォースドエラーの原因に関する研究 -種目別・対戦相手の評価について-

平田大輔¹ 柴原健太郎² 佐藤周平³ 村上貴聡⁴ 森井大治² 佐藤雅幸¹
¹専修大学 ²日本体育大学 ³仙台大学 ⁴東京理科大学

はじめに

筆者はこれまでに大学女子テニス選手を対象としたシングルの試合時のアンフォースドエラー(以下:UE)の原因について明らかにしてきた。そこでは状況判断過程に関する「注意散漫」「判断の迷い」の因子、技術的な問題に関する「準備動作の遅れ」の因子、心理的な問題に関する「不安」の因子があることを明らかにしている。しかし、シングルスとダブルスでは戦術・戦略、パートナーがいるといった異なる状況であること、またシード選手など自分よりも格上の選手と対戦するときは「チャレンジ精神で試合に臨めた」と述べるような対戦相手の評価によってもUEの原因が異なることが考えられる。そこで本研究では、種目別、対戦相手の評価によるUEの原因を明らかにする。

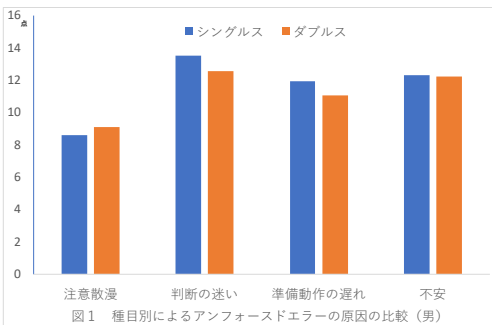
方法

対象は関東大学テニス連盟に所属しているテニス選手であった(表1)。UEの原因については16項目からなる平田ら(2018)の作成した質問紙を使用した。各項目の回答は選手は対象試合のUEに対してどの程度みられたかについて回答してもらった。

分析は、種目別についてはシングルス、ダブルスに、対戦相手の評価については対象試合の相手が自分より格上選手、同等選手、格下選手の3つに分類し、男女別にて分析を行った。

表1 対象者の内訳

	男	女
シングルス	31	28
ダブルス	27	22
格上	31	19
同等	21	19
格下	4	13



結果

図1、2は種目別(シングルスとダブルス)におけるUEの原因の比較である。

有意差はみられなかったが、男子選手では「判断の迷い」「準備動作の遅れ」が、女子選手では「注意散漫」「判断の迷い」でシングルスでの得点が高かった。

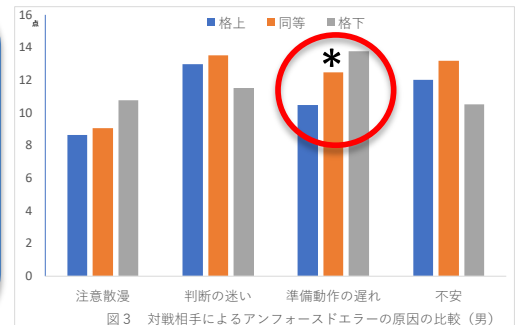
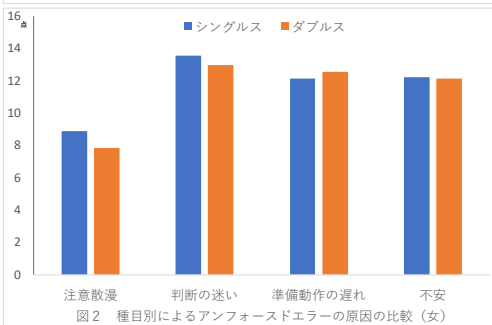


図3 対戦相手によるアンフォースドエラーの原因の比較 (男)

図3、4は対戦相手の評価によるUEの原因の比較である。

男子選手では「注意散漫」「準備動作の遅れ」の原因が格下相手に多く見られ、女子選手では「注意散漫」は格下相手に多く見られたが、「準備動作の遅れ」では格上相手に多く多くみられた。

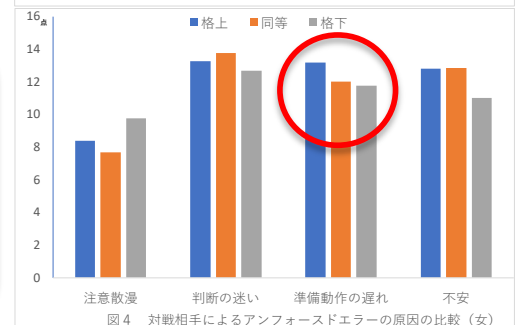


図4 対戦相手によるアンフォースドエラーの原因の比較 (女)

提言

種目別では男女ともダブルスよりシングルスで「判断の迷い」がUEの原因が多くみられている。これはダブルスではある程度役割分担がされているが、シングルスではすべてのプレーを一人で行わなければならないために迷いが生じていると考えられる。よってシングルスでは**すべきプレーを明確にすることがUEを減らす要因になると思われる。**

対戦相手の評価では「準備動作の遅れ」で男女で異なる傾向がみられた。**男子選手は格下の選手、女子選手では格上の選手と行う際に「準備動作の遅れ」がUEの原因として多くみられた。**

今後の課題として、有意傾向がみられる因子もあることから、対象者数を増やすことにより練習や指導において貴重な情報を提供していきたい。また性差だけでなく種目や対戦相手によりUEの原因に違いがある可能性があることから指導者はこれらを考慮したアドバイスをしていくことが必要になると思われる。